

四番町図書館コメントコンテスト

最終結果発表！

応募総数 372 点！

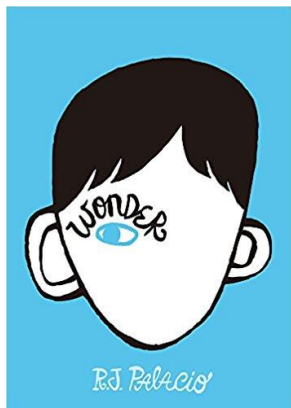
その中から“読んでみたくなるコメント” 3 作品の受賞が決定しました！

大賞

ぱちゃぽさん
(中学 3 年生)

『ワンダー』

R.J.パラシオ／著 中井はるの／訳
ほるぷ出版



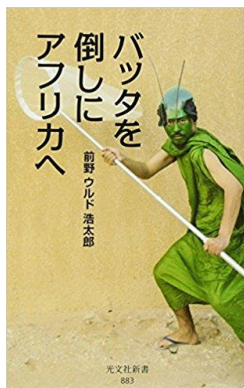
生まれつき顔に障がいをもつ主人公の男の子「オーガスト」は 10 歳にして初めて普通の学校に通います。オーガストが通う学校には、オーガストの見た目に対して嫌な顔をしたり菌扱いをする生徒や、先生に頼まれて仕方なく一緒にいる生徒がいる一方で、本心から優しく声をかけてくれる生徒もいます。様々な生徒がいる中、あなたは、もしあなたが本の中の学校に通っていたら、どのような感情で接する生徒として描かれているでしょうか。

大賞

B4 チキンさん
(中学 3 年生)

『バッタを倒しに
アフリカへ』

前野ウルド浩太郎／著
光文社新書



無理だ、と思ってすぐ諦めてしまうことはないだろうか。著者は、自身の研究対象であるバッタが猛威をふるうアフリカを救うため、そして、自分の夢を叶えるため単身モーリタニアに渡った。この本には、著者が過ごした死闘の日々がユーモアあふれる文体で綴られている。異国で様々な壁にぶつかりながらも、大好きなバッタとひたすらに向き合う姿に一步踏み出す勇気もらった。難しいことでも「頑張ってみようかな」と思える一冊。

大賞

ペンネームさん
(高校 2 年生)

『チョコレートの真実』

キャロル・オフ／著
英治出版



私はチョコレートが大好きである。そんなあたりまえのようにいつも食べているが、これを作るには沢山の苦勞があったのを知った。私よりも幼い子供達がカカオの実を取っているのだ。お金がなく、これを仕事として子供たちは生活しているのだ。きっと体は傷だらけであると思う。助けてあげたいと本当に感じた。今の私にできることは、感謝してチョコレートを食べることだと思う。また、子供が働く現実を他の人にも伝えていきたい。

- 『こころ』 夏目漱石／著 (新潮文庫) 該当者なし
- 『光をくれた犬たち 盲導犬の一生』 今西乃子／著 浜田一男／写真 (金の星社) 該当者なし
- 『浮浪児 1945ー 戦争が生んだ子供たち』 石井光太／著 (新潮文庫) 該当者なし
- 『さよならを待つふたりのために』 ジョン・グリーン／著 金原瑞人・竹内茜／訳 (岩波書店) 該当者なし
- 『園芸少年』 魚住直子／著 (講談社) 該当者なし
- 『旅をする木』 星野道夫／著 (文芸春秋) 該当者なし
- 『鳥が教えてくれた空』 三宮麻由子／著 (集英社文庫) 該当者なし